

1 5月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和8年5月	令和7年5月
◆一類感染症 （発生なし）	0件	0件
◆二類感染症 ・結核	33件	26件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症 ・腸チフス	2件 1件	0件 0件
◆四類感染症 ・A型肝炎 ・レジオネラ症	1件 4件	0件 5件
◆五類感染症（全数把握疾病） ・アメーバ赤痢 ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む） ・ジアルジア症 ・侵襲性インフルエンザ菌感染症 ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・水痘（入院例に限る） ・多剤耐性緑膿菌感染症 ・梅毒 ・百日咳 ・麻しん	1件 3件 2件 7件 1件 1件 12件 4件 1件 51件 12件 3件	1件 2件 3件 5件 0件 0件 14件 4件 — 50件 77件 3件
◆五類感染症（定点把握疾病：第19週～第22週（5月4日～5月31日分）） ・報告数上位の疾病は①感染性胃腸炎（499件：前月比0.80倍）、②A群溶血性レンサ球菌感染症（150件：前月比0.72倍）、③水痘（50件：前月比1.67倍）となっています。現状では、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症ともに報告数の少ない状況となっています。		

2. トピックス

《水痘（みずぼうそう） ～感染力が強く、春に流行します～》

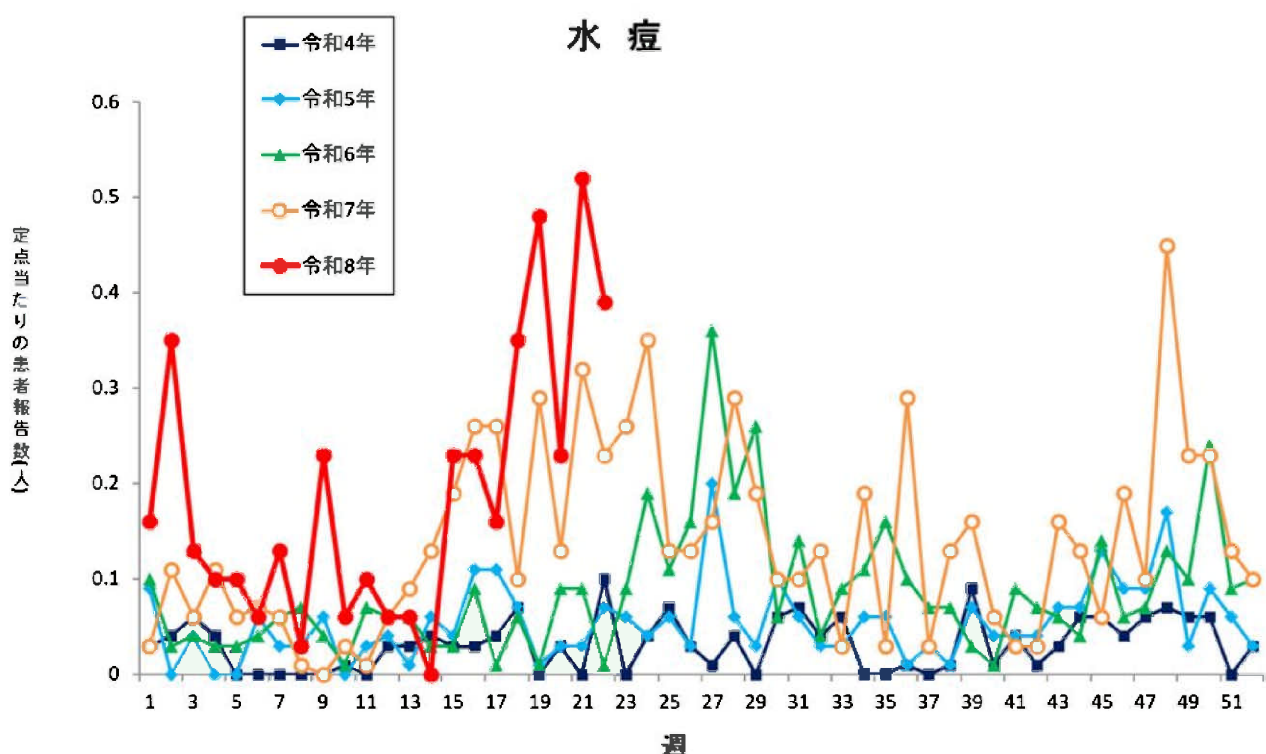
水痘は、「みずぼうそう」とも呼ばれ、水痘・帯状疱疹ウイルスを病原体とする感染症です。感染力は麻疹（はしか）に次いで強く、おもに空気感染により感染し、幼稚園や保育園などでも集団発生しやすいのが特徴です。好発年齢は幼児、学童期前半であり、春に流行がみられます。

この疾病は、患者の水疱や粘膜からの分泌物が感染源となり、それらにより汚染された物品も感染源になります。潜伏期間は2週間程度（10～21日）といわれ、子どもでは通常発疹が初発症状で、成人では発疹が出る前に発熱と全身倦怠感を伴うことがあります。発疹は全身性でかゆみを伴い、紅斑、丘疹を経て、2～3日のうちに水疱となり、その後、痂皮（かさぶた）化します。まれに重症化して、肺炎や脳炎を起こし、死亡することもあります。

発疹出現の1～2日前から痂皮（かさぶた）化するまで、感染性がありますので注意して下さい。発疹や発熱などの症状がみられた場合は、なるべく早く医療機関を受診しましょう。

最も効果的な予防方法は予防接種になりますので、感染の予防のために、1歳になったら早めに接種を受けましょう。また、水痘にかかったことがなく、予防接種を受けていない場合は、成人でも感染し、子どもに比べて重症になる傾向がありますから、接種することをお勧めします。

定期予防接種	対象年齢 (無料で受けられる年齢)	接種回数	接種間隔
水痘 (みずぼうそう)	1歳～3歳未満 ※過去に水痘にかかったことがある方を除く	2回	6～12か月の間隔 (最低3か月以上)



3 病原体分離情報（令和8年5月分）

令和8年5月における感染症発生動向調査事業において病原体の検出・分離はありませんでした。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

4 ARI サーベイランス実施状況

2026. 4. 30～2026. 5. 28 受付分（被検者 計 33 名）

	合計
AdV	4
HRV/EV	13
HPIV1	3
HPIV3	3
RSV-A	1
hMPV	5
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	4
計	33

*同一患者での重複感染例あり

AdV:アデノウイルス, HRV/EV:ヒトライノウイルスまたはエンテロウイルス, HPIV:ヒトパラインフルエンザウイルス,
RSV:RSウイルス, hMPV:ヒトメタニューモウイルス
Mycoplasma pneumoniae:肺炎マイコプラズマ

ARI サーベイランスの病原体検出・同定は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

5 医療機関からの百日咳菌（菌株）薬剤耐性検査依頼

市内医療機関より、患者より分離した百日咳菌（菌株）の薬剤耐性調査の依頼はありませんでした。

百日咳菌株に関する薬剤耐性遺伝子検査は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和8年 第19週～第22週（令和8年5月4日～令和8年5月31日）

	*小児科・急性呼吸器感染症定点報告 (50医療機関)												眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)							合 計		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザ等 感染症を除く)	新型コロナウイルス 感染症※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性呼吸器感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を 原因として同定された場合を除く)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるもの に限る)	インフルエンザによる入院患者		新型コロナウイルス 感染症※による入院患者	
千種	-	1	-	7	10	56	11	5	-	8	-	-	462	0	2									562
東	-	-	-	2	15	-	2	1	-	2	1	-	223											246
北	1	1	-	4	6	17	1	-	1	1	-	1	863	0	0	1	1	1	0	0	0	0	899	
西	1	3	-	4	25	94	8	2	1	3	2	-	1,855	0	0								1,998	
中村	-	2	4	-	5	36	-	-	-	-	-	-	260	0	2								309	
中	-	-	-	-	1	19	-	-	-	1	-	-	129										150	
昭和	-	3	-	-	1	15	-	-	-	-	-	-	70	0	0	0	0	5	0	1	0	1	96	
瑞穂	3	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	32	0	0								40	
熱田	2	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	125	0	1								131	
中川	10	3	2	7	17	38	11	4	-	-	7	-	909			0	0	1	0	1	0	0	1,010	
港	1	-	-	-	17	15	1	-	-	-	-	-	190										224	
南	1	7	5	4	2	24	1	-	-	1	6	-	1,048	0	1								1,100	
守山	1	1	-	-	6	51	1	-	-	2	-	-	672										731	
緑	1	4	-	-	25	88	3	-	-	2	1	-	553	0	0								677	
名東	1	5	2	5	18	39	9	3	-	2	-	-	872	0	0								956	
天白	-	1	-	4	1	7	2	3	-	-	-	1	275	0	0								294	
合計	22	35	14	38	150	499	50	18	2	23	17	2	8,538	0	6	1	1	7	0	2	0	1	9,426	
前月	251	99	52	23	207	627	30	7	3	28	4	1	13,222	0	6	0	0	8	0	5	1	2	14,576	
前月比	0.09	0.35	0.27	1.65	0.72	0.80	1.67	2.57	0.67	0.82	4.25	2.00	0.65	-	1.00	-	-	0.88	-	0.40	0.00	0.50	0.65	
昨年同月	83	323	34	31	175	805	33	21	95	37	9	4	15,557	1	16	2	1	7	0	5	15	33	17,287	


* 2025年4月7日（第15週）から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数に変更されました。

※ 病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報）令和8年5月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)		合 計
	性感器 症クラ ミジア	ウ性 イル ヘル ス感 染症	尖 圭 コ ン ジ ロ マ	淋 菌 感 染 症	感 染 色 メ チ シ ド リ ン 球 耐 菌 性	肺 ペ ニ シ ン 球 菌 感 染 症 耐 性	
千種	1	1	0	0			2
東							
北	17	7	4	7	2	0	37
西	0	4	0	0			4
中村	4	2	0	3			9
中	35	23	18	11			87
昭和	11	1	2	6	1	0	21
瑞穂	0	3	1	0			4
熱田							
中川	2	1	1	3	4	0	11
港							
南	2	1	0	0			3
守山	0	4	0	0			4
緑	8	0	0	6			14
名東	1	3	0	0			4
天白	5	2	4	1			12
合計	86	52	30	37	7	0	212
前月	78	60	30	32	6	0	206
前月比	1.10	0.87	1.00	1.16	1.17	-	1.03
昨年同月	120	75	39	56	12	2	304

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

*薬剤耐性緑膿菌の感染症基幹定点報告は、4月6日まで。
4月7日からは全数報告の対象疾病に変更されました。

5月分患者報告数	
週報分	9,426
月報分	212
合 計	9,638

令和8年 5 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和8年 5 月	令和8年計	令和7年計	令和6年計
		患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SA RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属ME RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1) 鳥インフルエンザ (H7N9)	-	-	-	-
三類感染症	コレラ	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症	2 (1)	12 (5)	73 (17)	52 (15)
	腸チフス	1	1	-	-
	パラチフス	-	-	-	1
合 計	3	13 (5)	73 (17)	53 (15)	

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和8年 5 月	令和8年計	令和7年計	令和6年計
	患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
O157	1	5 (1)	50 (5)	31 (6)
O26	-	-	3	5 (3)
O103	1 (1)	1 (1)	5 (4)	5 (1)
O111	-	-	2 (1)	2
O165	-	-	-	1
その他	-	3 (2)	3 (1)	2 (1)
型 不 明	-	3 (1)	10 (6)	6 (4)
合 計	2 (1)	12 (5)	73 (17)	52 (15)

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核 新登録患者発生状況（月報）

5月

保健センター名	令和8年5月（※）			令和8年計（※）			令和7年計（※）			令和6年計		
	活動性結核		（別掲） 無症状病原体 保有者	活動性結核		（別掲） 無症状病原体 保有者	活動性結核		（別掲） 無症状病原体 保有者	活動性結核		（別掲） 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	0	0	1	7	3	3	17	6	5	19	7	2
東	1	0	0	5	1	1	10	3	4	9	5	2
北	2	0	0	9	1	4	14	8	2	21	9	6
西	1	0	0	9	1	2	13	5	2	9	3	10
中村	3	1	2	15	3	9	19	5	13	22	2	7
中	2	0	1	8	1	8	18	8	17	17	7	6
昭和	1	1	1	4	1	4	11	3	7	18	5	2
瑞穂	0	0	0	2	0	2	9	2	0	8	2	2
熱田	0	0	1	1	0	2	6	1	4	10	2	3
中川	0	0	0	14	3	9	35	7	16	27	13	19
港	2	1	2	12	5	5	19	4	7	20	5	7
南	1	0	0	13	6	0	20	9	3	16	5	9
守山	5	1	0	11	1	2	18	1	2	26	11	5
緑	3	2	1	18	7	4	27	4	9	18	5	9
名東	1	1	1	4	3	2	12	6	4	10	4	4
天白	0	0	1	8	1	5	5	1	5	13	5	5
全市	22	7	11	140	37	62	253	73	100	263	90	98

※令和7・8年の数値は速報値です。

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和8年5月		令和8年計	令和7年計	令和6年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	-		2	5	4
A型肝炎	1		2	3	1
エムボックス	-		-	-	1
ジカウイルス感染症	-		-	-	3
チクングニア熱	-		-	1	1
つつが虫病	-		-	-	1
デング熱	-		3	-	4
日本紅斑熱	-		-	5	3
マラリア	-		1	2	1
レジオネラ症	4		15	58	48
レプトスピラ症	-		-	1	-
合 計	5		23	75	67

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（25疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和8年5月		令和8年計	令和7年計	令和6年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	1		8	8	20
ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	-		-	B型: 3	-
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3		9	36	65
急性弛緩性麻痺 (急性灰白髄炎を除く。)	-		-	-	1
急性脳炎※	-		3	5	15
クロイツフェルト・ヤコブ病	-		-	3	-
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2		15	29	46
後天性免疫不全症候群	7	無症候性キャリア: 5 AIDS: 2	無症候性キャリア: 14 AIDS 4	無症候性キャリア: 27 AIDS: 8 その他: 2	無症候性キャリア: 39 AIDS: 17 その他: 1
ジアルジア症	1		- 1	-	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		4	27	16
侵襲性髄膜炎菌感染症	-		- 1	3	-
侵襲性肺炎球菌感染症	12		38	83	82
水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)	4		7	17	9
多剤耐性緑膿菌感染症	1		1		
梅毒	51	早期顕症梅毒: 40 晩期顕症梅毒: 2 無症候梅毒: 9	早期顕症梅毒: 154 晩期顕症梅毒: 4 先天梅毒: 1 無症候梅毒: 45	早期顕症梅毒: 379 晩期顕症梅毒: 6 無症候梅毒: 165	早期顕症梅毒: 315 晩期顕症梅毒: 9 無症候梅毒: 143
播種性クリプトコックス症	-		-	3	1
破傷風	-		-	2	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-		-	-	1
百日咳	12		48	962	35
麻しん	3		5	6	2
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-		-	1	-
合 計	98		362	1,775	819

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握(侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く)を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 25疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

参考資料

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 (5 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起し得る感染症
四類感染症 (44 疾病)	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 (全数：25 疾病) (定点：26 疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 (4 疾病)	<p>【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの</p> <p>【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの</p>
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

(令和8年5月31日時点)